

平成16年3月23日

各位

日本ばら切花協会長 神生賢一  
特別委員会 委員長 大澤憲一

## 技術・品種等特別委員会 会議結果報告

春の彼岸の3月22日、大阪高島屋なんば店の会議室で品評会の打合わせと併行して特別委員会を開催しました、出席者は特別委員11名、執行部役員9名の計20名。

会議は全体会議の後、分科会で各論について十分協議が行われましたので、結果を報告いたします。

## ◆ 新技術検討部会（部会長 加藤哲男）

## (1) ビデオの作成し、新技術を公開する。

1本残し剪定法、ハイラック栽培法、少量培地栽培法、レベリング栽培法等について、ビデオを作成し、会員に配布する。

- ① 収録期限 9月24日
- ② 配布目標日 10月29日（青森県大会）

## (2) 輸出入バラの取り組みについて

- ① 全国を4ブロックに分け、東京、名古屋、大阪、九州の大手市場から取扱本数、単価を、月別に1年間を輸入バラ、国産バラに分けてまとめる。

指導機関に対して、原産地の表示を強化するよう働きかける。

- ② 国産バラの輸出については、関係諸国の流通情勢を広く収集し、結果をみて検討する。

## ◆ 品種検討部会（部会長 巳波元二）

## (1) アドバイザー制度の確立

ばらの生産者であれば、別記アドバイザー制度の恩恵を受けられる。

## (2) 会員育種家制度の擁立。

別紙 会員育種家の名簿

## (3) 育種状況のアンケート

8名の回答集計結果が発表されたが、さらに、全育種家の意向調査を再度実施し、広く公開して行く。

登録品種の育成普及について、どのように、バックアップして行く